

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 13 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009-2011

課題番号：21520058

研究課題名（和文） 入胎経の原典的研究

研究課題名（英文） Textual Study of the Garbhavakrantisutra

## 研究代表者

Robert Kritzer (ROBERT KRITZER)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部英語英文学科・教授

研究者番号：70288611

研究成果の概要（和文）：『入胎経』は輪廻転生のプロセスを述べる仏教経典であり、受胎・妊娠・誕生の説明に焦点をあてている。私は、本経典チベット訳の初めての批判校訂本・英訳、および詳細な解説を完成させた（仮タイトル：*The Garbhavakrantisutra: Critical Edition of the Text as Found in the Tibetan Mulasarvastivadavinaya Ksudrakavastu, with an English Translation*）。

研究成果の概要（英文）：The Garbhavakrantisutra is a Buddhist scripture describing the rebirth process and centered on an account of conception, gestation, and birth. I have completed the first critical edition of a Tibetan text of the sutra, as well as the first annotated English translation, and an extensive introduction (tentative title: *The Garbhavakrantisutra: Critical Edition of the Text as Found in the Tibetan Mulasarvastivadavinaya Ksudrakavastu, with an English Translation*).

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	600,000	180,000	780,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	100,000	30,000	130,000
年度			
年度			
総計	1,300,000	390,000	1,690,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・インド哲学、仏教学

キーワード：『入胎経』、インド古典胎生学、カンジュル研究

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 『入胎経』(*Garbhavakrantisutra*)は、胎児の母胎内での発生と成長の様子を詳細に記述する仏典であり、幾つかの点で非常に興味深いテキストである。まず、このテキストの内容はインド医学の文献と密接な関係をもっており、また、後世のチベ

ット医学においてもしばしば引用されて、大きな影響を与えている。さらにまた、仏教における禪定関係の文献にも引用され、実践者たちに人間存在の無常を示してきたほか、本経典は、身体観という極めて今日的なテーマに対する仏教の立場を示すという点でも重要である。近年の研究において、本経典は上

述のような諸観点から参照されることが多いのであるが、本経典の文献学的側面に注意が払われることは少なく、今日に至るまで本経典のいかなるバージョンに関しても、信頼に値する校訂本は存在しなかった。

(2) 今日に至るまで、本経典に対する文献学的研究は少ない。1932年に竺法業護訳がドイツ語訳され、義浄訳の書き下し文は、『国訳一切経』中に収められている。またコロンビア大学の大学院生が、最近提出された博士論文の附録として、義浄訳からのチベット訳を英訳して収録している。しかしながら、これまで本経典のいかなるバージョンに対しても厳密な校訂本が発表されたことはなく、私が研究対象としているチベット訳の英訳も存在しない。これまでの私の研究によると、本経典には多くの文献上の問題がある。例えば、異なったバージョンの間には大きな差異があり、同じバージョンの異なる版の間でも、少なからぬ相違が見られるのである。これらの事実は、信頼に値する校訂本の必要性を示していた。

## 2. 研究の目的

(1) 本経典の最も完全で、現存しないサンスクリット原典に最も近かったであろうと思われるバージョンは、チベット訳『根本説一切有部律』中に見出されるものである。さらに、私が校訂作業を行っているチベット訳は、サンスクリット原典を恐らく最も忠実に反映したものである。インドにおける本経典の伝承は、幾つかの異なった形態のテキストが併存する複雑なものであつたらうと考えられるが、校訂本は、そのような本経典の発展過程を理解するためにも非常に有用なものとならう。

(2) 私の目的は、本テキストの批判的校訂本・英訳および訳註、ならびに詳細な解説を作成することであつた。これはインド・チベット医学史等の分野における本経典の研究のための確かな基盤を与えるものとならう。

## 3. 研究の方法

(1) まず本テキストの四種の本版本（デルゲ・北京・ナルタン・チョネ）と三種の写本（トクパレス・プダク・ロンドン）を校合し、下訳を作成した。

(2) 次に、私はチベット語のテキストを批判的に校訂し、英訳を全面的に修正した。

(3) 最後に、私は校訂本と英訳の双方に対

する、詳細な解説を執筆した。

(4) 校訂本執筆に用いた主要な参考文献：  
Eimer, Helmut. "A Note on the History of the Tibetan Kanjur." *Central Asiatic Studies* 32.1-2 (1988): 64-72; Eimer, Helmut. "Some Results of Recent Kanjur Research" in *Archiv für Zentralasiatische Geschichtsforschung*. Ed. Dieter Schuh and Michael Weiers. Heft 1. Sankt Augustin: VGH Wissenschaftsverlag, 1983; Harrison, Paul. *Druma-kinnara-rajā-pariprccha: A Critical Edition of the Tibetan Text (Recension A) based on Eight Editions of the Kanjur and the Dunhuang Manuscript Fragment*. Studia Philologica Buddhica Monograph Series 7. Tokyo: International Institute for Buddhist Studies, 1992; Samten, Jampa. "Notes on the Lithang Edition of the Tibetan bKa'-'gyur." *Tibet Journal* 12.3 (1987): 17-44; Skilling, Peter. *Mahasutras*. Oxford: Pali Text Society, 1994. Vol. 1.

## 4. 研究成果

### (1) 研究成果の概要

① 私は、英訳と校訂本の最終的な修正を完了した。  
② 本経典に関する私の学会発表は好意的に受け止められた。そして、私の研究は本経典に対する最新の成果として認められている。  
③ 私は校訂本・英訳・解説を国際仏教学研究（東京）の *Studia Philologica Buddhica Monograph Series* の一巻として刊行するため、本年末までに完成原稿を提出する計画である。

### (2) 研究年度ごとの成果

#### ① 2009年度の研究成果

私の研究の目的は、チベット訳『入胎経』の厳密な校訂本と英訳を準備することであつた。2009年度に、私は校訂本の第三稿を仕上げ、その序文を35ページ（約半分）執筆するとともに、本文の暫定的な系統図を作成した。校訂本と系統図の原稿は、現在 Peter Skilling 博士による校閲中である。Skilling 博士はチベット大蔵経カンギュル校訂の権威であり、私の草稿に対するコメントと訂正を行うことに同意している。

私はさらに、私の英訳の第三稿を仕上げ、チベット語を母語とする Yangga 氏による校訂を受けた。同氏によるコメントは、既に私の草稿に反映されている。

また、私は仏教の教理文献の輪廻転生のプロセスの説明中にみられる本経典の引用に関する 27 ページの論文を執筆し、投稿済みである。本論文において、私は、本経典の異本中のどれがそれぞれの引用の典拠となっているかを確認した。私の結論はさらに、異本間での借用が一部あった可能性も示唆している。この論文は、Harvard Oriental Series の一巻として刊行される予定の Lambert Schmithausen 教授の記念論文集に掲載されることが決定している。

上述の通り、私の研究は本補助金を申請した際に私が提出した計画通りに進行した。

### ②2010 年度の研究成果

私の研究の目的は、チベット訳『入胎経』の厳密な校訂本と英訳の準備をさらに進めることであった。

2010 年度、私は校訂と英訳に対する序論の執筆を継続し、前年度のものに加えて新たに 77 頁を執筆した。この序論では、『入胎経』の漢訳三本（胞胎經 [T. 317]、佛爲阿難説處胎會 [T. 310 no. 13]、佛説入胎藏會 [T. 310, no. 14, T. 1451]）と他の蔵訳二種（*Tshe dang ldan pa dga' bo la mngal du' jug pa bstan pa* [Tohoku 58]、*Dga' bo la mngal na gnas pa bstan pa* [Tohoku 57]）を詳しく検討し、諸訳の関係を考察した上で、それらの内容と私が校訂・英訳している蔵訳との比較検討をおこなった。また、本経とインド医学文献における懐胎と妊娠に関する記述の相違を検討した。

6 月には、台湾台北の国立政治大学における「瑜伽行派研究の新しい地平」という連続講演の一環として、『入胎経』：仏教胎生学に関する文献」と題する講演をおこなった。この講演で、私は本経典を台湾の仏教学者と大学院生に紹介した。

8 月には、国際チベット学会第 1 2 回大会において発表をおこない、恐らくは敦煌における著名な蔵訳者 Chos grub によると思われる二種の蔵訳を、その蔵訳の原本であったとみなされる漢訳と比較検討した。その内容の詳細な検討により、蔵訳者は漢訳、蔵訳、あるいはサンスクリット原本のかたちで他の伝本も参照していたことが明らかになった。この発表内容は、2012 年に『創価大学国際仏教学高等研究所年報』に掲載された。

### ③2011 年度の研究成果

2011 年度の研究計画は、校訂本と英訳の校正等、出版に向けた最終的な準備を行うことであった。解説・英訳・ならびに校訂本はそれぞれ異なった時期に準備されたものであるから、原稿を統合するにあたって用語・章別け・参照頁を全体的に統一する

必要があった。本研究の出版元として予定している国際仏教学研究所（東京）と出版の体裁について協議し、解説・英訳・校訂本の全てを一巻にまとめて出版することで合意している。

私はこの時点で校訂本と解説のおよそ 2/3 の校正を完了し、解説の校正が完了した段階で、英訳の最終校正を始める見通しがたった。また、全体の表記を統一する作業も完了している。

2011 年度には、さらに英訳の解説に加筆して、現存するチベット訳三種と漢訳三種の間の相違を詳細に示す幾つかの大きな表を加えた。また校訂したテキストの系統図を完成させ、この校訂の基礎となった四種の木版本と三種の写本との相違点の詳細な分析を行った。具体的には 2011 年 12 月 24 日から 2012 年 1 月 9 日までパリに出張して、一般に利用されている影印北京版の読みを、フランス国家図書館に所蔵される北京版の別の刷本（影印版とは若干異なる）の読みと校合した。

一般に利用可能な、「入胎経」の北京木版（1717～20 年版）の大谷影印本は、約 100 か所について判読不能もしくは、かろうじて判読可能な状態であった。パリ出張の目的は、フランス国家図書館所蔵の木版（1737 年版）を調査することであった。

木版（1737 年版）は、申し分なく鮮明で、大谷影印本では不明瞭であった文字のほとんどすべて読み取ることができた。また 2 つの木版の間でいくつか異なった箇所があることを発見した。このことは、木版の改変の可能性を示す。さらに、大谷影印本のうち 1 枚は、実際には木版（1717～20 年版）の影印ではないということを示唆する箇所を少なくとも一つ見つけた。この部分については、木版（1737 年版）が代わりに挿入されているものと推測される。木版の調査後、調査結果をすべて私の校訂本下書きへ書き込んだ。

さらに、4 月 2 日に、ホノルルで開催されたアメリカアジア学会で“Affliction and Infestation in an Indian Buddhist Embryological Sutra”（「インド仏教の胎生学的経典に述べられた身体的苦痛」）の題のもと、本経典に対する私の研究の一部を発表した。この経典には、胎児の週毎の発育の記述に加えて、誕生の直後から人間を苦しめる寄生虫・悪鬼・病気に関する部分が含まれている。今回の発表では、経典のこれらの部分がどのようにして身体と輪廻転生に対する執着から人を離欲させようとしているのかを論じたのである。「入胎経」は、苦痛を例証するために当時の医学的知見を用いている。苦痛は、仏教によると現世存在に、生来備わるものであるとされる。本経典は、読者である僧侶たちに対して転生に伴う次の人

生での避けられない苦痛を予告している。この苦痛は、受胎時に始まり妊娠期間、幼少期へと続く。そこでは子どもはあらゆる種類の害虫に寄生され、多くの悪鬼に悩まされる。加えて、経典には約50の具体的な病名が挙げられている。

これらの害虫や悪鬼、病気のほとんどは我々にとっては、非現実的なものと取れるかも知れない。しかしこれらのうちのいくつかは、インドの古典医学の文献ではその存在が十分に証明されている。私は論文の中でこれら害虫や悪鬼、病気を医学文献にみられるものと、仏教書の作者が創作したものとを区別した。そして当時の医学知識がどのようにして宗教目的に使用されたかを分析した。

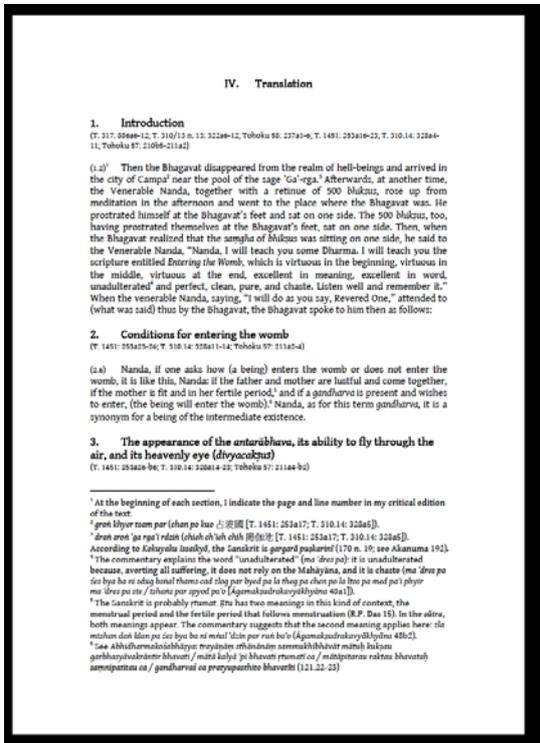


図 1 英訳の一例

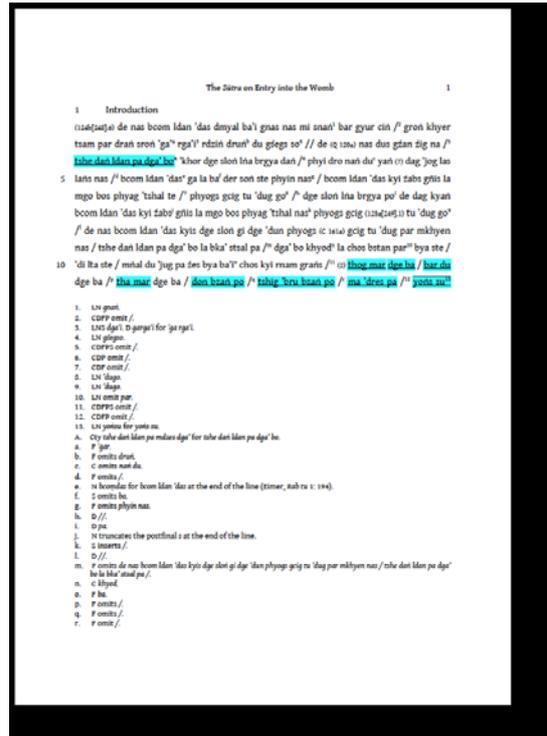


図 2 校訂本の一列

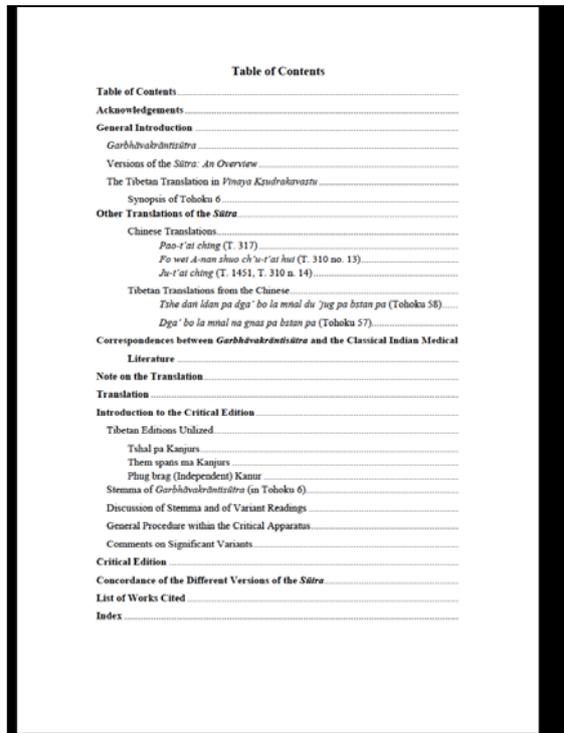


図 3 目次

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

(1) Kritzer, Robert, “Tibetan Texts of Garbhavakrantisutra: Differences and Borrowings,” Annual Report of the International Research Institute for Advanced Buddhology, Soka University, 査読無Vol. 15, 2012, pp. 131-145.

〔学会発表〕(計2件)

(1) Kritzer, Robert, “On the Tibetan Translations of the Garbhavakrantisutra,” 12th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Vancouver, British Columbia, 2010/08/19.

(2) Kritzer, Robert, “Affliction and Infestation in an Indian Buddhist Embryological Sutra,” Annual Conference of the Association for Asian Studies, Honolulu, 2011/04/02.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

Robert Kritzer (ROBERT KRITZER)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授

研究者番号：70288611

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：